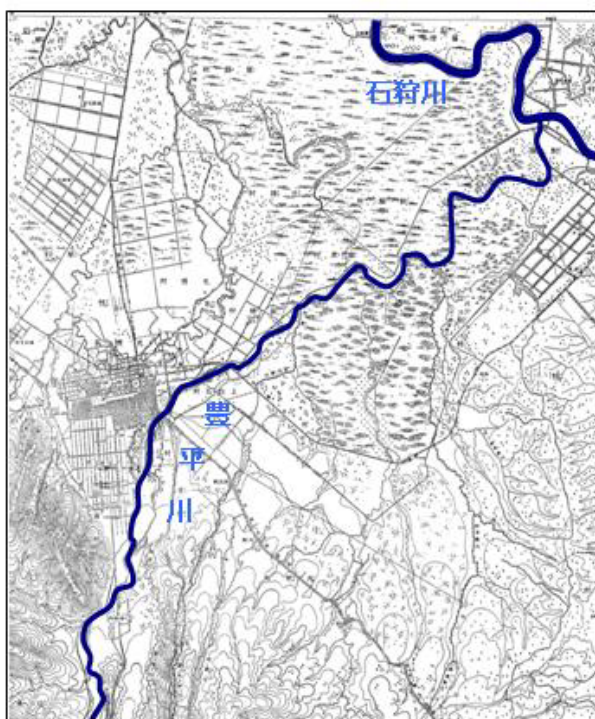
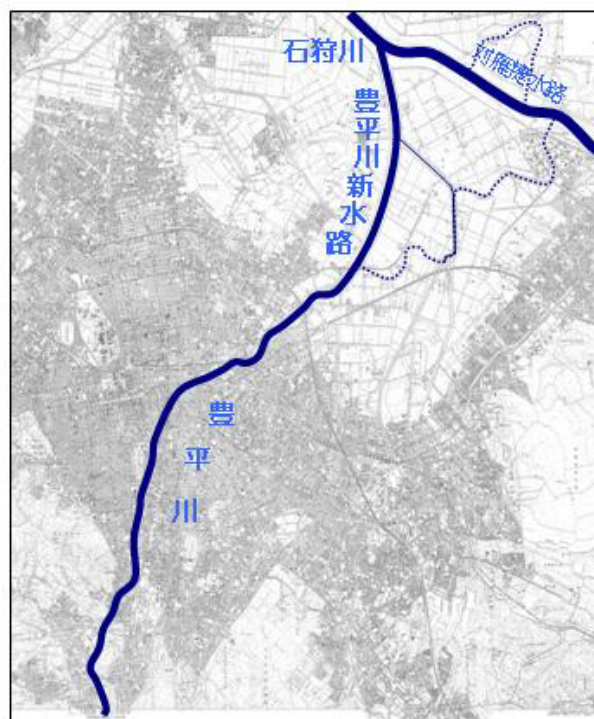


河道の変遷

河道の変遷



明治29年の河道



現在の河道

昭和7年～昭和16年にかけて河道掘削し、新水路を整備

明治初期に札幌に開拓史が設置されてまもなく豊平川の治水対策も始められ、明治14年には南1条から南8条にかけて本格的な堤防がつけられました。明治から大正時代にかけてはたびたび大洪水に見舞われ堤防の決壊や橋の流出などの大きな被害を受けましたが、明治31年には今の豊平橋のところに初めて永久橋（鉄製トラス）が架けられました。現在の豊平橋は昭和41年に架けられたものです。

また、豊平川の米里より下流の約6.7kmの区間では、蛇行した河道を安定させ、併せて川を短くすることにより洪水を早く石狩川に流し水害を防ぐために、昭和7年から昭和16年にかけて新しい川を開削する捷水路（しょうすいろ）工事が行われました。この時に切り替えられたもとの豊平川が、現在の旧豊平川です。

なお捷水路工事は石狩川では大正7年から始められており、昭和6年には生振（おやふる）捷水路、昭和8年には当別捷水路が完成し、現在の茨戸川が誕生しています。